

令和3年度高知西高校国際シンポジウム開催！

高知西高校の3年間の探究活動の集大成を発表！



7月15日（木）、高知県民文化ホールオレンジホールにて、令和3年度高知西高校国際シンポジウムを開催しました。高知西高校3年間の探究活動の集大成となる成果発表の場となりました。

今年度はコロナ対策を十分行ったうえで開催をさせていただきました。会場には高知西高校2・3年生や来賓の方々が来場し、一方で、高知国際高校1年生と高知国際中学校全学年の生徒は、本会場と学校とをZoomを活用して中継をつないで、国際シンポジウムを視聴する形式を取りました。



【3年生研究発表】

国際シンポジウム最初のプログラムは、3年生代表4チームによる研究発表を行いました。プレゼンテーションはすべて英語で行い、パワーポイントの内容は、聴衆生徒にも分かりやすいように日本語で提示しました。聴衆参加型の発表形態をどのチームも行い、聴衆生徒と一体になった研究発表になりました。発表者の探究内容を聴いて、生徒たちは新たな気づきを得たようです。

【研究発表内容】

- ・「PSYCHO-LET ~Psychology×Toilet~」
- ・「あなたにとっての幸せってなんですか？
～世界から学ぼう 幸せのかたち～」
- ・「日本の未来を切り開く！男女共同参画社会
～男性の育休取得と私たちにできること～」
- ・「海の環境を守るために～子どもの頃から学ぶ価値観～」

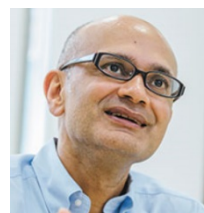


【基調講演】

【基調講演内容】

「探究は学びのエッセンス？
～鳥の目、虫の目、魚の目、そしてもぐらの目！～
～未知の未来に必要な目～ きみはどう身につける？」

基調講演は、Datta Shammi 氏をお招きし、「Why や Effects を複数の角度から分析する面白さ」や、「疑問・問いを持つことの重要性」など50分間のご講演をしていただきました。生徒たちは、一つの物事を多角的・多面的に見る大切さや、探究活動を通して得ることのできるスキルなど新しい視点を得ることができ、学び続けることの意義についても深く考えることができました。



Datta Shammi 氏

岡山理科大学
教育学部教授

県内の英語教育に携わる方々とのパネルディスカッション！

【パネルディスカッション】

【討論内容】 「Welcome to Corona World～労働・文化・環境が受けた影響～」

午後からは、「コロナとどのように向き合って生きていくか？」をテーマにパネルディスカッションを行いました。今年度は、県内のALTの先生方や、高知県文化体育スポーツ部国際交流課及び高知市総務部総務課で英語教育に携わっている先生方を招き、英語と日本語で意見交換を行いました。ディスカッションでは、コロナによって、労働や文化、環境にどのような変化が起きたかについて各国の状況を情報共有しつつ、各国がコロナとどのように向き合ってきたのか、今後はどのように向き合う必要があるのかについて活発な議論が繰り広げられました。生徒達はディスカッションだけでなく、リハーサルや休み時間中にも交流を深めることができ、とても良い機会になったようです。



【講評】



最後に、今回の国際シンポジウムを振り返って、高知学園大学・高知学園短期大学の近森憲助学長より、ご講評をいただきました。

国際シンポジウムについては、回を増すごとにより充実したものになっており、発表を通して英語を実践的に使えるようになってきているということの評価をいただきました。

生徒たちへのメッセージとして、「一人一人の人間が、具体的にまたは個別的にかかわっていくことが一つの国際である。この関係をより良く築くことが、すべての人を幸福にすることにつながる。」というお言葉をいただきました。

今回の国際シンポジウムをきっかけに、今後自らの課題に対して探究・解決できるよう成長してほしいと思います。

【生徒の感想】

私は発表する立場だったので、観客に自分の言っていることが伝わるようゆっくり話すことを心がけた。話を切り替えるタイミングや間に入るタイミングがわからなくなった時もあったので、程よく話に入れる技術を身につけたいと思った。

僕たちはグローバル探究でコロナウィルスの飲食店に与える影響について、探究しているので、今日のディスカッションのお題もためになると思い聞いていた。自分もそのくらいまで出来るようになりたいと強く感じた。英語は聴き取る力が非常に大切だと感じた。

私は午後の部の「国際シンポジウム」を聞いて、初めての国際シンポジウムでとても圧倒されました。3年生の英語科の人はほんとにすごいと思いました。私は英語の勉強をもっとしないといけないと思いました。

